ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

夢のふくらむ学校

令和元（2019）年
６月２９日発行
第１３号
文責（校長）片山　隆

言葉・語句の意味理解に向けて

W校幼初等部は、２２日で前期の授業日を終了しました。借用校の工事に伴う臨時日程で６時間授業が続きました。特に、幼児部や初等部低学年のお子さんには、午後の授業日が続き疲労度も大きかったことと思います。９月７日の授業日再開まで長い夏休みとなります。一時帰国や体験入学、サマーキャンプをはじめとする現地のアクティビティ等、そして家庭での生活など充実した８６日間を過ごしてほしいものです。

各校の図書館では、夏休みに入る前には普段よりも多くの図書を借りることができます。この機会にじっくりと大作に取り組むのもよし、昨今は電子図書も発達していますからそれらを大いに活用するのもよし、各ご家庭で日本語に親しむ工夫をお願いいたします。

さて、先日日本のメディアが、（日本に在留する）外国人児童生徒の日本語能力について、「日常会話は普通にできるし、ふりがなを付ければ本もすらすら読める。しかし、全ての語句や単語の意味を知っているわけではないので、文の内容の理解が不十分になり、学習に困難を感じている事例が増加している。」と報道していました。すなわち、日常の会話としての日本語の能力と授業・学習用語としての日本語の習得を同時進行で行っていかないと学習内容の理解ができないということです。この事例は、福井県における事例でした。放課後に、元教員をはじめとしたボランティアによるマンツーマンの指導のもと、一つ一つの言葉の意味を理解しながら文章の読解に取り組んでいる様子が紹介されていました。

補習校では「音読・漢字・視写・作文」を意識してカリキュラムを組んでいますが、その「音読」の際に、漢字や様々な単語の読みと意味についての理解も同時に進めていく必要があります。ご家庭におかれましても、日常会話はもちろん教科書や図書を一緒に音読したり、国語辞典を使って一緒に調べ学習をしたりして、**確実な言葉の理解・習得**に努めていただきますようお願いいたします。

ＬＩ校「運動会アンケート」より

さる６月８日に行われたＬＩ校運動会のアンケートに寄せられたご意見やご質問への回答です。

＜よかった点＞
- 保護者テントがフィールドに置かれたので、応援や写真撮影が間近にできてよかった。
- 移動用の専用通路が確保されていたのはよかった。
- 保護者席がフィールド内にできたので、子どもたちの熱気を感じることができ、放送もよく聞こえ一体感を感じることができた。

＜質問・ご意見等に対する回答＞

Q：昼食時間を３０分から４５分にできないか。
A：お子さんの体調面、後片付けの負担軽減などの観点から終了時刻が遅くならないよう配慮しています。
Q：競技間の段取りが悪く、いつもより時間がかかっていたように感じた。
A：各競技担当のボランティアの皆様と担任との連携・連絡がスムーズに行くようにします。
Q：幼児部のダンスは本部席に向いており、保護者には残念だった。
A：ダンスをする位置を、保護者席にも見やすく工夫して参ります。
Q：中高等部の応援について、内容の差がありすぎた。
A：応援合戦の時間配分や内容について、生徒の意欲が高まるよう指導して参ります。
Q：中高等部の「綱引き玉入れ」はよく分からなかった。
A：競技内容を吟味して参ります。

６月２１日付で**「東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたポスター募集」**の要項等が届きました。対象は初等部５年生と中等部２年生ですが、学校の事情によっては他の学年でも可となっていますので、初中等部の児童生徒の皆さんの応募を期待しています。本日ＬＩ校の児童生徒及びW高中等部の生徒には文書を配付しましたが、W校初等部の皆さんは、本校のホームページから必要書類をダウンロードして応募してください。**補習校から応募できる作品数は、校内で５０点の応募につき１点**となっています。１００点集まれば２点応募できます。加えて、**応募者全員に参加賞と礼状**が送られます。**校内締め切りは９月２１日です。**

初中等部の皆さん向けに、**「第 10 回花王国際こども環境絵画コンテスト」（９月３日必着）**
中高等部の皆さん向けに、**「ＪＩＣＡ国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト２０１９」（９月１１日消印有効）**の要項と応募票をそれぞれ配付しました。なお、締め切りの関係で**「環境絵画」は、各ご家庭での応募**となりますのでご了解願います。**エッセイは８月３１日校内締め切りです。**